



(発表する赤峰さん)



(当日は公民館主催の薬草教室でした)

1 あなたの活動の概要や目指すこと

公民館活動を通して、活力ある地域づくり、豊かな人づくりを目指している。人と人、人と地域を「つなぐ」ための活動をおこなっている。小学校の児童に公民館の仕事を手伝ってもらうこと(公民館お助けデー)で、子ども達の生きがいがづくり、居場所づくりに取り組んでいる。リーダーの育成にもつながりたい。地域住民が学校支援や地域行事への参加による生きがいがづくりや仲間づくりをおこなうことで人材育成につながりたい。みんなが繋がることで安心して暮らせる地域にしていきたい。

2 これまでの活動で、心に残っている活動について

野外体験活動での子ども達とそうめん流し・凧揚げ(子ども達と大凧揚げ、連凧揚げ)・子ども達の体験活動(野外体験、ハゼ釣り、凧揚げ)に大分大学の学生ボランティアのみなさんが参加してくれているが回を重ねるごとに(平成15年～)リーダーの学生さんが参加の声掛け、募集、連絡等をしてくれるようになり、代表者とのやり取りで上手く運ぶようになった。・APUの留学生のホームステイプログラムによる異文化交流で地域住民や子ども達が貴重な体験をすることができた。留学生との交流はその後も続き、ホストファミリーが大学のお祭りに招待されたり、お正月を一緒に過ごしたり、夏休みにホストファミリーを国に招待してくれたり、卒業の時にご両親を紹介してくれたら、…。留学生を受け入れたことがきっかけで留学した子どももいた。・お助けデーでは高学年になったら公民館でお手伝いができる楽しみにしている児童が活動の様子を覗きにきたりしている。塾やお稽古事などでお助けデーに参加できない児童も「今回だけは参加させてほしい」とお家の人と話し合っただけで参加したりしている。参加を楽しみにしてくれていることをうれしく思う。

3 これからの活動で力を入れたいことやPRしたいこと

コロナ禍で思うように活動できなかった間に住民の皆さんの気持ちが消極的になった。再開したときに今までのような参加や協力がもらえるのか心配している。その間高齢者は外に出ないことに慣れ、認知が進んだ人もいる。早くコロナ前の状況にもどきたい。先日、規模を縮小して開催した「公民館ふれあいまつり」では、参加した地域住民に大変喜ばれた。「人は人から元気をもらおう」と改めて感じた。せっかくできた大学生とのつながりも、学生が卒業してしまい、なくなった。また1から築きなおしていきたい。公民館主催の「薬草料理マイスター養成講座」は来年10年目をむかえる。ほとんどが校区外、市外(今年度は県外からも参加)から参加いただいている。参加者同士が繋がり、今後の活動に役立つように継続していきたい。



(広報部 上原)

7月13日(水)約2年ぶりに会員さんの元へ取材訪問して来ました。当日は中川理事長も一緒に午前中は大分市、午後からは佐伯市を訪れているんな話を聴く事が出来ました。大分市では川添公民館 公民館主事の赤峰さんを尋ねて今までの活動やこれからの展望などをお話していただきました。隣の川添小学校の子どもたちと続けている公民館お助けデーも9年目を迎えて益々盛んになっているようでした。ただ3年前からのコロナ禍で地域の高齢者が公民館を訪れる事が少なくなり痴呆症が進んでしまう事を心配しておられました。赤峰さんご自身は先日愛媛県で開催された全国公民館研究集会兼、中国・四国地区公民館研究集会で発表者として参加するなど、精力的に活動しています。「来年は4年ぶりに一緒に篠栗に行きたいね」と約束して公民館を後にしました。



(ツリーハウスのお庭)



(理事長と足利悦子さん)

1 あなたの活動の概要や目指すこと

佐伯市で高校生までの支援を必要とする子どもたちが放課後や長期休暇の時に過ごす「放課後等デイサービス・ツリーハウス」という児童福祉施設です。厚生労働省のガイドラインに則った活動をしています。ツリーハウスでは、主に体づくりを通してひとりひとりに寄りそった支援をしています。保護者のニーズと本人の希望よりプランを作り活動を提供し支援しています。スラッグラインでぶら下がったり、トンネル山を駆け上ったり、室内でもサーキットなど挑戦してみたい「遊び」を通して、子どもたちにとってはとても楽しいことです。それぞれの子どもたちに力がついていくよう声かけしたりしています。子ども達のつけるべき力として、自己の折り合いをつけることであったり、コミュニケーションがよりよくとれるようになっていたり、体をつくることで不器用さを解消したりすることです。必要に応じて学習支援をすることもあります。佐伯市では、同事業所が増え、保護者が選択することが出来るようになりました。お預かりした子どもたちが社会へ出る力も必要となり、ツリーハウスでは、就労支援もスタートしました。保護者にも子どもたちにとっても必要としてもらえるような場所を目指していきます。

2 これまでの活動で、心に残っている活動について

大切な活動の中の体づくりは、自然に恵まれたこの環境を大いに生かしています。子どもたちの成長を見守る中で「遊びこみ」の重要性を感じます。集中力や思考力、コミュニケーションをとることも 更には、人間関係の葛藤もすべてこの「遊びこみ」にあります。もちろん全職員もすべての活動に意図を持つことが肝要でありその支援の実践があって成立します。だからこそ、「挑戦してみたい」遊びがあることを大切にしています。

3 これからの活動で力を入れたいことやPRしたいこと

事業をスタートさせてもうすぐ4年です。スタート時の子どもたちが自分で選択した社会へ羽ばたいていくのを見届けたいです。



(広報部 上原)

7月13日水) 会員さん訪問、午後からは佐伯の足利さんを4年ぶりに訪問事業を立ち上げた時に一度訪問しました。4年ぶりのツリーハウスは利用者も増えてきているみたいでした。また新しく中高生を対象に就労支援をスタートしたみたいで就労支援担当者としてころころHappyで知り合った松原さんがツリーハウスに居ました～～、協育ネット法人総会の後に活動発表して頂きましたね！ 今度はツリーハウスの活動発表をお願いしたいなと思いました。久しぶりの会員さん訪問で元気をたくさん頂きました！
一般社団法人 わかな ツリーハウス <http://treehouse-aoyama.com/>